

広がるインドの成長エリア

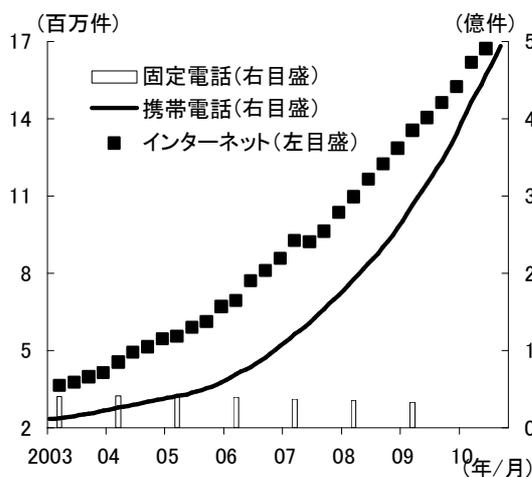
～ 携帯電話契約件数からみた地方経済の発展 ～

(1) インド経済はハイペースの成長持続。自動車販売や鉱工業生産も引き続き好調。地域別にみると、成長エリアの拡がりが見取。その点を携帯電話契約件数の動向から確認してみると、次の通り。

(2) まず、インド全体の携帯電話契約件数は、2006年以降、急ピッチの増勢が持続（図表1）。固定電話が低迷するなか、インターネット契約件数も近年、大幅な増加ペースが持続。従来、インド経済の牽引役はデリー首都圏と隣接するハリヤナ州、加えて、インド最大の商都ムンバイを抱えるマハラシュトラ州。1人当たりGDPをみると、今日でも3エリアが上位3位まで独占（図表2）。

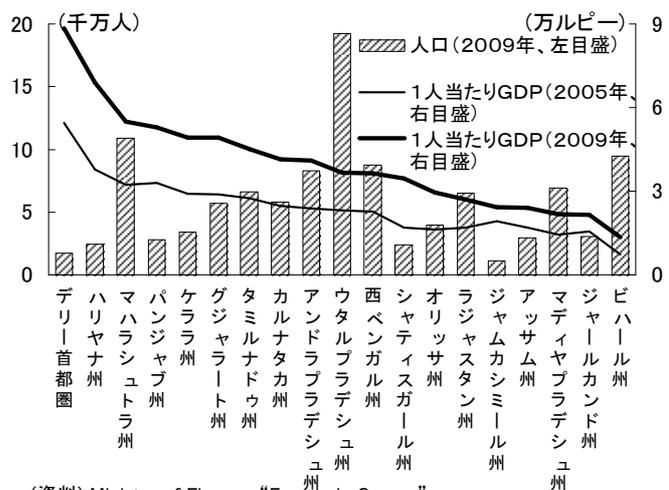
(3) しかし、地域別に契約件数をみると、近年は上記3エリア以外の地方圏が原動力（図表3）。4つに大別すると、①内外資本の進出に拍車が掛かる南部4州、すなわち、タミルナドゥ州、アンドラプラデシュ州、カルナタカ州、ケララ州、②デリー圏とマハラシュトラ州の間に位置してアラビア海を臨み物流拠点としても発展するグジャラート州や同州に隣接するラジャスタン州の西部エリア、③ビハール州や西ベンガル州など、従来、経済成長から立ち遅れ後進地域であった東部エリア、④デリー首都圏に隣接するも、ハリヤナ州と異なり、成長が遅れていた内陸部のウタルプラデシュ州。要すれば、急速な市場拡大がインド全体に拡がり。安価で魅力的な機種が発売など企業努力のみならず、根底には、各エリアでのインフラ整備や内外資本の進出に伴う経済発展メカニズムの始動。成長エンジンの面的拡大に照らせば、インド経済の高めの成長軌道は中期的に持続する公算大。

(図表1) インドの携帯・固定電話、
ならびにインターネットの契約件数



(資料) Cellular Operators Association of India "Cellular Report" など

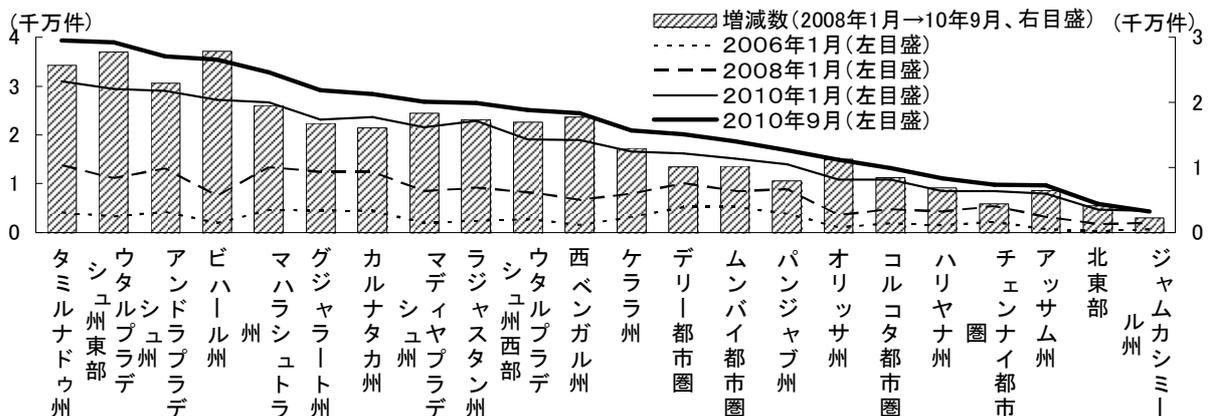
(図表2) インドの主要州・都市別人口と1人当たりGDP



(資料) Ministry of Finance "Economic Survey"

(注) 人口規模1千万人以上を対象。

(図表3) インドの主要州・都市別携帯電話契約件数の推移



(資料) Cellular Operators Association of India "Cellular Report"